

一般社団法人 aichikara 

平成 29 年度

年次報告書



平成 29 年度の aichikara

東日本大震災から丸 7 年が過ぎました。

被災地に行くと、あの頃から変わりつつある街並みや生活を目にします。

2011 年に子ども達を受け入れた頃は、「いつまでこの子たちの笑顔を見続けることができるのだろうか」と不安を抱きながら活動を行っていました。

しかし、震災を機に出会った子ども達は、7 年の間に皆たくましく育ち、大学生や高校生になりました。中には、海外に留学している子や、スタッフとしてキャンプに参加してくれる子もいます。

7 年間活動を続けていく中で、最も強く感じるのは「続けることの困難さ」です。そのような中で、今日まで被災地に寄り添ったサポートを続けることができたのは、皆様のご支援のお陰であります。

当法人は、キッズチャレンジサポート事業を中心に 4 つの事業を展開しております。今年度も多くの皆様にご協力をいただき、各事業を活発に行うことができました。ここに、感謝の意を込めて 1 年間の活動を報告させていただきます。

今後も、変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表理事 石原 杏莉

4 つの事業

子ども達の可能性を引き出し、たくましく生きていくチカラを育みます。

キッズ
チャレンジ
サポート

青少年の「挑戦したい！」をサポートし、社会のリーダーとなり得る人材を育成します。

ユース
チャレンジ
サポート

地域で活躍する個人・団体と協力し、地域社会に資するイベント等に参画しています。

人と地域を
守る活動

大学や中学校等と連携し、主体性や社会性に重点を置いた場を提供しています。

教育機関
との連携

contents

p.1	平成 29 年度の aichikara	p.9	活動を支える力
p.3	キッズチャレンジサポート	p.11	組織図・役員名簿
p.5	ユースチャレンジサポート	p.12	活動計算書
p.7	人と地域を守る活動	p.13	協力機関
p.8	教育機関との連携		

キッズチャレンジサポート



大事にしているコト

1. 「やりたい！」を実現し、「できた！」を増やす。
2. 自ら考え、行動するチカラを育む。
3. 集団生活での気づきを大切にする。
4. たくさんの挑戦と失敗ができる環境をつくる。
5. 自然の中での遊びを通して豊かな感性を育む。

● 子どもリフレッシュキャンプ 2017

“子ども達に野外で過ごす楽しさを味わってほしい”

実施日：[A日程] 2017年8月5日～11日
[B日程] 2017年8月13日～19日

場所：渡合ランプ村（岐阜県中津川市）

参加者：[A日程] 21名
[B日程] 19名
（福島県、熊本県、愛知県の小中学生）
（幼児、保護者）

自然の中の開放的な空間には、楽しさや厳しさを経験する機会がたくさん詰まっています。

キャンプの拠点であった渡合ランプ村には、電気や水道もなく、生活をするためには仲間と協力する必要があります。そのような環境で、子ども達は火を起こし、水を汲み、ご飯作りに挑戦するなど、たくさんの経験をすることができました。最初は上手くいかなかったことも、日に日に自分でできるようになっていき、みんなのたくましさを間近で見ることができました。



事業責任者
石動 愛恵



Pick up !

🌀 ロープワーク



🌀 野外クッキング



🌀 川遊び



● 福島県での活動



▷ 福島っ子自然体験学習

実施日：2017年9月16日～17日
場 所：磐梯青少年交流の家
対 象：福島県の小学生
参加者：13名

福島県子ども達にもっと遊べる機会をつくりたいと、福島県内でのキャンプを開催しました。このキャンプでは、五色沼散策、野外料理、クラフト工作、ストレッチなどのプログラムを実施しました。



▷ 福島 family 大集合

実施日：2018年3月31日
場 所：吾妻学習センター
対 象：キャンプ参加者、保護者
参加者：19名



子どもリフレッシュキャンプの参加者とそ
の家族向けのイベントを行い、レクリエーシ
ョンや保護者会を通して交流を深めました。

● 1 day camp



実施日：2017年11月12日
場 所：あいち県民の森（愛知県新城市）
対 象：東海地方の小学生、幼児、保護者
参加者：19名



当法人は、これまでは福島県の子どもの対
象としたキャンプを行ってきましたが、愛知
県内の子ども達にも野外活動の楽しさを伝
えるために1day campを開催しました。ピザ
作り、紅葉狩り、焼きビー玉でストラップ
づくりを行いました。



● キャンプ事前研修

ストレスマネジメント講習会：2017年7月5日
AED講習会：2017年7月9日
カメラ研修会：2017年7月24日
渡合合宿：2017年7月1日～2日、15日～16日



キャンプを安全に開催するために、スタッフ向けに行う研修です。子どもの心理や
応急処置などについて学べるよう、専門家を招いて各種研修を実施しました。

COLUM

ぐるぐるマーケット

もの作りをしている作家さんから、ご好意で持ち
寄っていただいたアクセサリーや雑貨、ポストカ
ードなどの作品を販売するイベントです。売り上げは、
子どもリフレッシュキャンプ2017の開催資金とさ
せていただいています。



2017年6月23日～25日：売上 226,000円
2017年12月8日～10日：売上 192,720円
計 418,720円

ユースチャレンジサポート



育みたい3つのチカラ

1. 自ら考え判断し、行動するチカラ
2. 多様な環境に適応し、他者と協力するチカラ
3. 目標を決め、やり遂げるチカラ

● 「震災から学ぶ」フィールドワーク

“被災地を訪れ、自分の目で見て学んでほしい”

実施日：2017年11月16日～19日
場 所：宮城県気仙沼市・福島県福島市
伊達市・南相馬市・浪江町
参加者：9名



2011年4月、学生だった私は、初めて被災地を訪れた時のことを今でも思い出します。実際に被災地へ行き、人と出会って話すことで、テレビや本では得ることができない「大切なもの」を教わっています。震災から7年が経ちましたが、たくさんの学生達に被災地を訪れ、学んでもらいたいと思っています。



事業責任者
石原なる美

11月17日 唐桑半島ビジターセンター → 安波山 → リアスアーク美術館 → 気仙沼魚市場周辺
11月18日 伊達市保原町・霊山町小国地区 → 環境再生プラザ → 南相馬市 → 浪江町・大熊町



日本赤十字豊田看護大学
中屋敷 茉弥乃

私が初めて津波の被害のあった地域へ行ったのは震災の2年後。建物に残る大きな爪痕から、そこに押し寄せた津波の威力を実感し、圧倒されました。

今回気仙沼で訪れたリアスアーク美術館には、多くの被災物が展示されていました。津波そのものではなく、その影響を受けた被災地の人の気持ちや生活について考える機会になりました。

被災地のことを知り、伝えていくこと、自分はどう人の支えになれるのかを考えていくことが、私に今できることだと思いました。



至学館大学
深谷 汐音

福島県には、放射線量の数値を示すモニタリングポストが点在しており、私が暮らしている環境との違いに驚かされました。その時、私が住んでいる地域の自然放射線量の数値がどれくらいかを知らないことに気づき、知識の無さを痛感しました。また、帰還困難区域を車で通った時、民家の外観は綺麗なのに、ひとつも灯りがなかったことがとても怖く、寂しく感じました。

目の前にある日々の生活を一つひとつ大切にしていこうと思いました。



● スタッフ合宿



▷ aichikara 渡合合宿

実施日：2017年5月3日～5日
場 所：渡合ランプ村
参加者：17名

野外活動を通じて、新メンバーを含めたスタッフ間の交流を深めました。火起こし等の災害時にも活用できるサバイバルスキルの向上を図りました。



▷ aichikara 合宿

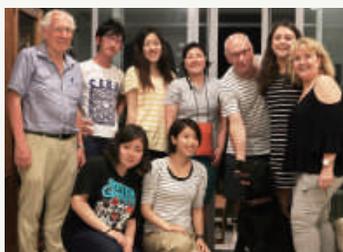
実施日：2017年12月16日～17日
場 所：定光寺野外活動センター
参加者：23名

ユース世代のスタッフを対象に、普段の活動とは異なる視点を養うための学び合いの場です。

本合宿では、教育、難民、環境保全など様々な分野で活躍する方のお話を伺いました。



● リーダーシップ研修 in オーストラリア



実施日：2018年2月18日
～2月28日

参加者：4名

場 所：オーストラリア

(シドニー、ウロンゴン、
バサースト、カウラなど)

広い視野と知見を持つ次世代のリーダーを育成するために、昨年度から始まった海外研修です。

「Landcare」というオーストラリア全土で活躍する団体のご協力のもと、生物多様性や自然と人の暮らしのつながりについて学びました。

● スキルアップ助成

本助成制度は、大学生をはじめとしたユース世代のスタッフを対象に、各種資格の取得や研修会への参加を促すことで、より質の高いプログラムを推進することをねらいとしています。

【平成29年度 助成実績】

Wafa (Wilderness Advanced First Aid) 資格取得	1名
FRJ2018 (ファンドレイジング・日本2018) 参加	1名
リーダーシップ研修 in オーストラリア 参加	2名



● 活動サポート

当法人では、10代から60代までの幅広い世代のスタッフが活躍しています。中でも、学生を含めたユース世代がやりたい活動を行うことができるよう、多様な角度でのサポートを行っています。



COLUM

ミーティング

毎週水曜日は、学生が事務所に集ってミーティングを実施しています。話し合う内容は、活動の方向性や各種イベントの企画などについてです。その他、自分達の将来について語り合い、仲間や自分自身への理解を深める時間を持つこともあります。



人と地域を守る活動

● 東日本大震災関係



▷ 3.11 東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや

実施日：2018年3月11日
場 所：矢場公園



東日本大震災以降、愛知県を拠点に活動しているNPOや企業とともに、毎年運営に参画しています。当日は、多くの参列者とともに14時46分の黙禱、キャンドルの点灯を行いました。

▷ 心ひとつに3.11- 大府

実施日：2018年3月10日
場 所：大府市民活動センター
「コラビア」/ 新池

愛知県大府市近隣で活動されている方々とともに、ブース出展やトークリレーでイベントに参加させていただきました。また、イベントの売り上げをaichikaraにご寄付いただきました。

● 岐阜県中津川市加子母でのつながり



子どもリフレッシュキャンプの拠点となっている岐阜県中津川市加子母において、地域の方々が企画・運営する「加子母の大学」「軽トラ市」などのイベントや、「かしもむらづくり協議会」「加子母教育協議会」が主催する地域の会議に参加しています。また、加子母の名産が集まるイベント「舞台味うまいもん祭り」にて、マッサージを学んだ学生が来場者にマッサージを行い地域の方との交流を深めました。

● 愛知県内でのつながり



愛知県内の様々なイベントで、被災地での活動報告や募金活動を行う機会をいただいています。こうしたイベントに継続的に参加し、多様な団体と交流を持つことで、今後の災害時にも連携できる関係づくりを目指しています。

【主な参加イベント】

宗春おもち祭り、味の蔵たけとよ子どもフェスタ、大府児童センター祭り、城東ライオンズクラブ 薬物乱用防止キャンペーン、大府手づくり市、第4回手羽先サミット®2017、ISOWA ファミリー・オープンハウス など



教育機関との連携

● 東北スタディツアー

至学館大学より「夢・チャレンジ奨励金」による助成を受け、東北スタディツアーを開催しました。

日 時：2017年9月26日～28日

場 所：宮城県石巻市・女川町・南三陸町

参加者：16名（うち至学館大学学生12名）

旧大川小学校では、「小さな命の意味を考える会」の遺族の方にお話を伺いました。女川町では、旧女川町地域医療センター、旧女川交番、シーパルピア女川、女川駅などを視察しました。その他にも、石巻市や南三陸町にて、植樹活動や観光地化に向けた環境整備のボランティア活動を行いました。

- 9月27日 石巻南浜津波復興祈念公園 → 旧大川小学校 → 旧女川町地域医療センター → 女川駅周辺
- 9月28日 恋人岬・南三陸牡蠣クラブ（南三陸町） → 南三陸さんさん商店街 



泉 陽太（至学館大学 健康科学部 子ども健康・教育学科）

旧大川小学校では、テレビや新聞、ネットからの情報と、遺族の鈴木さんの話す事実はまるで違い、説得力がありました。小学校における防災とは、その土地のことをよく知らない教師だけで行うのではなく、その地域を十分に理解している方、PTAなどと連携し、地域で命を守る事が大切だということを学びました。私の住んでいる地域はいずれ南海トラフ地震に巻き込まれ、東日本大震災よりも被害が大きいとの予想もされています。その中でどうしたら命が守れるのかを今回学ばせてもらいました。社会に出る前にそれを行動に移せる心の強さや人間の芯の部分鍛えて、子どもの命を最優先に考えられる教員になりたいと強く思いました。



● 中学生による募金活動



安城市立篠目中学校
教員 鈴木 健太

中学校の授業を通し、生徒と共に募金活動を実施しました。きっかけは東日本大震災についての授業で、「私たちにできること」をテーマに震災から7年経った今でもできる支援は何かと話し合ったことです。話し合いの時点では募金を集めることが目的でしたが、校内外での募金活動を通じ、いつしか「被害を知ってもらいたい」「3.11を忘れない」という気持ちに変わっていく様子を感じました。これから何年経とうが、私は3.11を忘れません。そして、私がこれまでに見たことや聞いたことを、目の前の子ども達に伝え続けたいと思っています。これが教員として「私ができること」だと考えています。

● ゼミナールでのワークショップ



至学館大学のゼミナールにて、コミュニケーション実習「ブロックモデル」を実施しました。この実習では、自己や他者の動き、コミュニケーションやリーダーシップのありようを、ゲーム感覚で楽しく学ぶことができます。

実習に挑戦した学生は「自分はチームの中でどれくらい貢献できたか?」、「積極的に発言することができていたか?」ということに気づくことができました。

活動を支える力

aichikara の活動は、ボランティアスタッフをはじめ、数多くの方々のご協力やご支援のもと支えられています。

キャンプへのご協力



子どもリフレッシュキャンプ2017は、以下の通りご協力をいただきました。

- 【キャンプ期間】(8/4 ~ 8/19)
- ♥ 寄付金額合計：¥2,629,138
- 👤 ボランティア数：延べ 403 名

🍏 ご提供いただいた物資
米、中華麺、キュウリ、ナス
プチトマト、卵、国産もも肉
名古屋コーチン肉団子、味噌
鮭、飲料水、菓子類 など

街頭募金



福島の今やキャンプの様子についてたくさんの方々から、学校や仕事が終わった平日の夕方や週末に名古屋市内や大府市内で募金活動を行いました。

- ◆ 実施回数：5 回
- ♥ 合計：¥203,202

募金箱

東海地域にある企業や店舗のご協力をいただき、募金箱を設置しました。

- ◆ 募金箱設置数：106 店舗
- ♥ 合計：¥234,413

gooddo

gooddo のウェブサイトにある aichikara への応援ボタンをクリックし、獲得したポイントに応じて支援金を提供いただく仕組みです。

- ♥ 合計：¥59,967

かざして募金

スマートフォンに「かざして募金」(ソフトバンクグループ CSR 活動) のアプリをインストールし下のロゴマークをかざすと、寄付ができる仕組みです。

- ♥ 合計：¥12,000
- 👤 人数：延べ 12 人



COLUM

ファンドレイジングプロジェクトチーム発足！

20代の社会人メンバーが中心になり、団体運営やキャンプ開催のための資金調達を目的としたFRP(ファンドレイジングプロジェクト)チームを発足させました。

月に1回のペースで集まり、ミーティングを行っています。



新しい寄付のかたち



パンダふわふわ



昨年度同様、パンダ型エア遊具の運営を合同会社ジェイジェイホールディングスから受託し、売り上げをご寄付いただきました。

♥ 合計：¥257,950

◆ 運営回数：9回



ご協力いただいた団体・企業様

- ・ NPO 法人春香ロマン隊
- ・ 株式会社 ISOWA
- ・ 至学館大学 など

ボランティアベンダー



自動販売機での購入1本につき、設置オーナー、飲料メーカー、管理会社の3者から1円ずつ寄付され、aichikara に合計3円が寄付される仕組みです。

aichikara の事務所があるマンションの大家さんに寄付型の自動販売機を設置いただいています。

♥ 合計：¥62,904

◆ 設置台数：2台



会員制度

aichikara の会員には、正会員、賛助会員（個人）、賛助会員（法人）の3種類があります。

会費

- * 正会員：¥5,000/月
- * 賛助会員（個人）：¥1,000（1口）から/月
- * 賛助会員（法人）：¥30,000（1口）/年

* 正会員数：31名

* 賛助会員：2名

※2018年3月31日現在

広報

◆ 報告書



◆ Web Site

www.step-aichikara.com/



◆ Blog

ameblo.jp/i-aichikara/



◆ SNS



一般社団法人aichikara

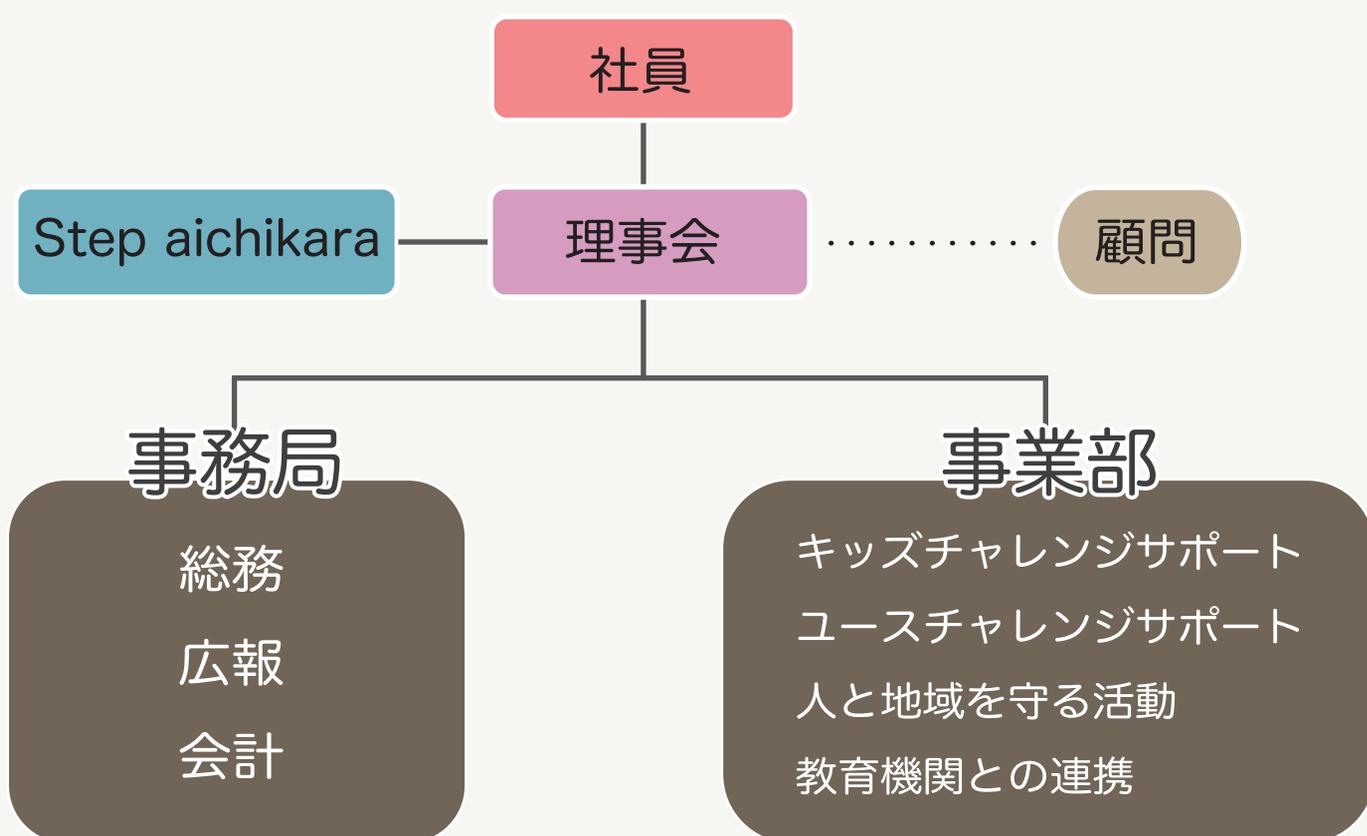


@aichikara2011



aichikara.gia

一般社団法人 aichikara 組織図



役員名簿

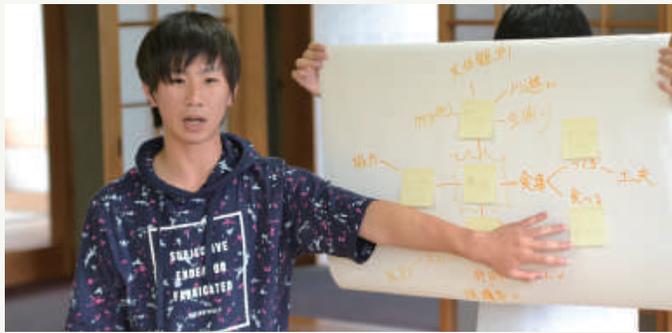
代表理事..... 石原 杏莉	理事..... 小金沢 奈央
副代表理事..... 御堂 大貴	理事..... 佐藤 匠
専務理事..... 大島 巧	理事..... 横倉 亜美
専務理事..... 梶岡 優子	理事..... 成瀬 智子
専務理事..... 篠田 一彦	理事..... 朝日 唯
専務理事..... 東松 広岳	学生理事..... 新田 桃子
専務理事..... 中村 豊	監事..... 若尾 僚彦
常務理事..... 石原 なる美	顧問..... 谷岡 郁子
常務理事..... 石動 愛恵	顧問..... 中島 紀子
理事..... 福地 結実子	顧問..... 沼田 眞由み

活動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

一般社団法人aichikara
(単位:円)

科 目	予算額(a)	決算額(b)	差異(b-a)	摘要
I 経常収益				
1. 受取会費	3,576,000	2,129,168	△ 1,446,832	
正会費収入	3,540,000	2,033,168	△ 1,506,832	31人(新規4人含む)
賛助会員収入	36,000	96,000	60,000	8,000/月 2人
2. 受取寄付金	2,652,600	1,648,457	△ 1,004,143	
寄付金	1,950,000	824,038	△ 1,125,962	
寄付金(パンダ売上)	592,600	583,925	△ 8,675	
その他	110,000	240,494	130,494	gooddo、ボランティアベンダー、かざして募金等
3. 受取委託金	4,800,000	4,800,000	0	
至学館大学	4,800,000	4,800,000	0	400,000/月
4. 事業収益	4,955,000	5,497,072	542,072	
キッズチャレンジ事業収益	3,720,000	5,024,466	1,304,466	
ユースチャレンジ事業収益	1,235,000	373,700	△ 861,300	
人と地域を守る事業収益	0	98,906	98,906	
教育機関との連携事業収益	0	0	0	
5. その他収益	200,200	99,854	△ 100,346	
物販収入	200,000	99,747	△ 100,253	
受取利息	200	107	△ 93	
経常収益計(A)	16,183,800	14,174,551	△ 2,009,249	
II 経常費用				
1. 事業費	7,007,780	5,174,780	△ 1,833,000	
キッズチャレンジ事業費	4,377,880	3,872,586	△ 505,294	
ユースチャレンジ事業費	2,042,000	1,102,900	△ 939,100	
人と地域を守る事業費	587,900	199,294	△ 388,606	パンダ費用含む
教育機関との連携事業費	0	0	0	
2. 管理費				
(1)人件費	5,299,599	5,137,240	△ 162,359	
役員報酬	4,608,347	4,608,347	0	常勤役員2人
雑給	0	96,000	96,000	学生4人
法定福利費	691,252	432,893	△ 258,359	社会保険料
(2)その他経費	3,403,104	3,283,892	△ 119,212	
事務所家賃	1,296,000	1,282,000	△ 14,000	
事務所光熱費	360,000	287,190	△ 72,810	
事務所通信費	61,200	79,920	18,720	
事務費	536,904	538,604	1,700	
福利厚生費	60,000	106,072	46,072	
接待交際費	120,000	76,796	△ 43,204	
旅費交通費	180,000	172,866	△ 7,134	
保険料	0	165,960	165,960	
修繕費	0	45,900	45,900	
消耗品費	120,000	44,705	△ 75,295	
租税公課	6,000	7,200	1,200	
燃料費	0	8,290	8,290	
通信費	25,000	36,546	11,546	
車両費	150,000	70,000	△ 80,000	
諸会費	58,000	76,000	18,000	愛知県キャンプ協会、NPOかしもむら、ふくしま連携復興センター
施設利用料	10,000	8,300	△ 1,700	
印刷費	240,000	158,433	△ 81,567	
寄付金	0	55,000	55,000	小国からの咲顔、セカンドハーベスト
雑費	180,000	64,110	△ 115,890	
経常費用計(B)	15,710,483	13,595,912	△ 2,114,571	
法人税、住民税及び事業税(C)	68,500	68,500	0	
当期正味財産増減額(D)	404,817	510,139	105,322	
前期繰越正味財産額(E)	14,824,611	14,824,611	0	
次期繰越正味財産額	15,229,428	15,334,750	105,322	



● 協力機関



発行日 2018年5月18日
発行元 一般社団法人 aichikara
責任者 石原 杏莉
事務局 梶岡 優子、山本 祐里、石動 愛恵、志治 友規
編集 市川 彩果、中屋敷 茉弥乃、深谷 汐音、山路 史華

印刷・製本

紙文 カミコ inc.
紙文総合販売株式会社

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 2-26-28 アイランド大須 1 階
TEL : 050-5898-6896 FAX : 052-308-8910
E-MAIL : info@ai-chikara.com
HP : <http://www.step-aichikara.com/>



愛子カラ



助成団体



至学館大学

夢・チャレンジ奨励金

資料提供



この報告書は、国立国会図書館
東日本大震災アーカイブプロジェクトに協力しています。

